

6 直播方法の改善

(1) 浅水代かき後未入水直播栽培（条播）

ア 適地

県内全域

イ ほ場準備

稲わらや雑草等は、秋～春の耕耘により早く腐らせる。春先に稲わら等の有機物を大量にすき込むと土壤還元害が起こり、出芽や苗立ち率の低下だけでなく、初期生育も悪くなる。

湛直は可能な限り均平にすることが重要である。

ほ場内の高低差が大きい場合は、秋～春に手直しをおこなっておく。レーザー均平機による均平作業を行い、高低差を無くすことも有効である。

春の耕耘作業はていねいに行い、碎土性を高めておく。

ウ 浅水代かき

土が7～8割見える程度の入水量とし、水田ハローで1回代かきとする。水田ハローにより均平精度は高まるが、こなし過ぎは初期生育において酸欠になりやすいので注意する。（詳しくは作業方法は、浅水代かきの項参照）

播種時の水深は水田の一部に水たまりができる程度で、水田の半分以上が見えるくらいとなるよう、代かき前に入水量には注意する。

エ 播種

播種量の調整

$$1 \text{ m間の種子粒数} = (\text{設定乾籾播種量}(\text{kg}/10\text{a}) \div \text{乾籾千粒重}) \times 300 \div 1.07$$

播種深は1 cm程度が最適である。深播きは発芽率を低下させ、逆に浅い場合は苗が転んだり、浮苗になり、鳥害を受けやすくなる。

オ 播種後の水管理

播種後は「無湛水出芽方式」にし、出芽を促進させる。

< 事例紹介 >

湛水直播栽培における代かき翌日播種（条播） ” 濁水を流さない湛水直播栽培 ” へのチャレンジ！！

八日市市柴原南あすなろファームでは集落一農場方式により平成11年から大規模な湛水直播栽培に取り組んでいる。平成14年度は約15haで湛水直播栽培が行われ、播種作業は延べ4日間で順調に終了した。しかし、かねてから播種前に発生する濁水対策が課題となっていたことから、14年度「濁水を流さない湛水直播栽培」へチャレンジすべく、80aのほ場で去る5月3日、4日に”極浅水代かき翌日直播”が実施された。

”極浅水代かき翌日直播”の作業体系

尻水戸の止水板をきっちりとふさぎ、ゆっくり入水する。

入水が完了したら、荒代かきを行う。

その後、植代かきまで水位を浅く管理する。

播種前日に水田ハローを利用して、ほ場の土が7~8割見える程度の極浅水で植代かきをていねいに行う。

翌日に播種作業を行い、その後は無湛水で管理する。



写真 - 21 極浅水代かき作業の様子

写真 - 22 翌日直播作業の様子

今回の作業体系のような水管理を行うことで、強制的に濁水を流すことを防ぐことができ、濁水対策として有効な営農技術であることが判明した。

八日市市柴原南あすなろファームでは、「次年度以降この方法を広く取り入れ、環境に優しい農業を展開していきたい」と意欲的である。